

陸上水槽におけるトコブシ(台湾産)養殖							
[要約] 台湾からトコブシを導入し、フロリダ原産オゴノリ、不稔性アナアオサ、配合飼料を使用した陸上水槽での養殖技術を開発した。							
沖縄県水産試験場・増殖室				連絡先	098-994-3593		
部会名	水産	専門	養殖	対象	トコブシ	分類	指導

[背景・ねらい]

台湾では養殖オゴノリを給餌することによって、安定したトコブシ養殖業が営まれている。トコブシ養殖の本県での問題点は餌料の安定供給である。そこで、大量培養が可能になったフロリダ原産オゴノリや不稔性アナアオサ、トコブシ用配合飼料を使用して陸上水槽での養殖技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

- ① 陸上水槽に図1に示したネトロン籠(1×1×0.5m)を設置し、殻長25mmと殻長33mmの当オトコブシを用いて養殖試験を実施した。
- ② 各餌料区の成長には、それ程差がなかった。出荷サイズの殻長50mm(体重20g)前後になるまで、殻長25mmで約7ヵ月、殻長33mmで約5.5ヵ月要した(表1、表2)。
- ③ 生残率は、94.6~98.3%と高かった(表1、表2)。
- ④ 餌料転換効率はフロリダ原産オゴノリで5.8%、不稔性アナアオサで12.8%、トコブシ用配合飼料で75.5%であった(表2)。
- ⑤ 殻長33mmから出荷サイズまでの餌料コストは、トコブシ用配合飼料では7.5円/個(給餌量20.8g)と低かった(表2)。
- ⑥ 肥満度は、不稔性アナアオサとトコブシ用配合飼料で高く、フロリダ原産オゴノリで低かった(表2)。前者らを給餌したトコブシは見た目にも太っていた。

[成果の活用面・留意点]

- ① トコブシ用配合飼料での養殖は餌料コストが低いことから可能性があり、殻長3cmサイズの種苗は約6ヵ月で出荷サイズに成長し、高歩留まりが期待できる。
- ② トコブシ用配合飼料での養殖は、残餌処理等の飼育管理を十分行う必要がある。
- ③ フロリダ原産オゴノリや不稔性アナアオサを使用した養殖でも速い成長と高歩留まりが期待できるが、餌料コストが判明していない。今後、餌料コストを算出するため、これらの大量培養での生産コストを求める必要がある。
- ④ 地域によっては、天然アナアオサが大量に繁茂する場所があり、利用も可能である。

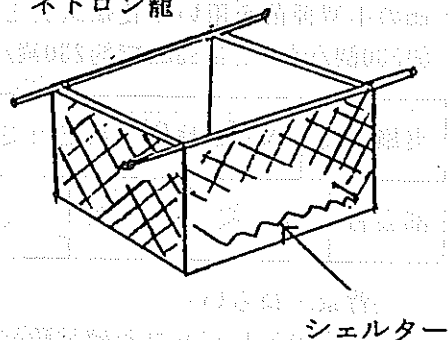
一 飼 開 平 終 平 生 貝 一 飼 開 平 終 平 肥 餌 生 貝 一

[具体的データ]

表1 トコブシの飼育成績 (補ロ籠、殻長25mmサイズ)

試験区	フロリダ産	不稔性
	オゴノリ	アナアオサ
飼育日数	213	213
開始個体数	316	316
平均殻長 (mm)	24.6	24.6
終了個体数	299	305
平均殻長 (mm)	52.4	53.4
生残率 (%)	94.6	96.5
貝1個当りの給餌量(g)	342.5	134.9

ネトロン籠



シエルター

注) 飼育期間: 平成9年2月10日~9月11日

図1 飼育籠

表2 トコブシの飼育成績 (ネトロン籠、殻長33mmサイズ)

試験区	フロリダ産	不稔性	トコブシ用
	オゴノリ	アナアオサ	配合飼料
飼育日数	166	166	166
開始個体数	242	241	242
平均殻長 (mm)	33.4	33.4	33.4
終了個体数	237	230	238
平均殻長 (mm)	52.2	52.0	50.2
平均体重 (g)	20.2	21.8	20.3
肥満度 (mg/mm)	387.0	419.2	404.4
餌料転換効率 (%)	5.8	12.3	75.5
生残率 (%)	97.9	95.4	98.3
貝1個当りの給餌量(g)	267.3	142.8	20.8

注) 飼育期間: 平成9年12月19日~平成10年6月3日、餌料転換効率は給餌量から算出した。

[その他]

研究課題名: 海産魚介類養殖試験

予算区分: 県単

研究期間: 平成10年度 (平成9~10年度)

研究担当者: 與那嶺盛次・牧野清人・太田格

発表論文等: 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書 (掲載予定)